

安 全 デ ー タ シ ー ト

改定 : 2015年12月 2日

整理番号 : 7412

1. 製品及び会社情報

製品名	: 次亜塩素酸ソーダ (低食塩)	
会社情報		
会社名	: 大和薬品株式会社	
住所	: 〒981-3408 宮城県黒川郡大和町松坂平8丁目3番2号	
担当部門	: 生産物流部	
電話番号	: 022-345-3904	
FAX番号	: 022-345-3906	
緊急連絡先	: 生産物流部	営業部化学品グループ
・電話番号	: 022-345-3904	022-345-3901

危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	: 火薬類	区分外
	可燃性/引火性ガス	分類対象外
	可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性/酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	区分外
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	区分1
健康に対する有害性	急性毒性	
	経口	区分4
	経皮	分類できない
	吸入(気体)	分類対象外
	吸入(蒸気)	分類できない
	吸入(粉塵、ミスト)	分類できない

皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分2 (消化器)
	区分3 (気道刺激性)
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	区分1
水生環境慢性有害性	区分1
オゾン層有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起後	: 危険
危険有害性情報	: 金属腐食のおそれ 飲み込むと有害 重篤な皮膚の薬傷、目の損傷 重篤な眼の損傷 水生生物に毒性
安全対策	: 他の容器に移し替えないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じんまたはミストを吸入しないこと。 取扱い後はよく洗うこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。 保護眼鏡／保護面を着用すること。 環境への放出を避けること。
応急措置	: 物的被害を防止するため流出したものを吸収すること。 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚(または毛髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息

	させること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
保管	： 耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。 施錠して保管すること。
廃棄	： 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品・

混合物の区別	： 単一製品
化学名又は一般名	： 次亜塩素酸ナトリウム
別名	： 次亜塩素酸ソーダ
濃度又は濃度範囲	： 有効塩素 12.0重量%以上
官報公示整理番号	： 化審法（1）-237
CAS No.	： 7681-52-9
化学式	： NaClO

4. 応急措置

吸入した場合	： 蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移して呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。 呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の手当てを受ける。 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、暖かく安静にする。
皮膚に付着した場合	： 付着物を布にて素早く拭き取る。 大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
目に入った場合	： 出来るだけ早く医師の診断を受けること。 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。 洗眼が遅れると障害を大きくする恐れがある。
飲み込んだ場合	： 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。嘔吐物は飲み込ませないこと。

水でよく口の中を洗わせて上で、水を飲ませて希釈する。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 本製品自体は燃焼しない。周辺火災発生時には、その状況に応じて適切な消火剤を用い消火を行う。
多量の水。
酸との接触により有毒な塩素ガスを発生するので、炭酸ガス、酸性の粉末消火剤は避ける。
- 特有の消火方法 : 適切な保護具(耐熱性着衣など)を着用する。
安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護する。
漏出した物質の下水や排水溝への流入は、適切な対策なしに行ってはならない。
- 消火を行う者の保護 : 熱により分解して、塩素等の有毒なガスを発生するので、消火作業従事者は全面陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。(ゴム製防護衣、ゴム製保護手袋、ゴーグル型保護眼鏡、ゴム長靴、空気呼吸器など)

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項／保護具及び緊急措置

- : 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
極めて腐食性が強いので、作業の際には必ず適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

環境に対する注意事項 : 河川への排出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込めおよび浄化の方法・機材

- : 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
- 二次災害の防止策 : 周辺地域の住民に直ちに警告し、危険地域から避難させる。
周辺住民、交通機関等に影響を及ぼす可能性のある場合は、関係官庁及び当社の緊急連絡先に通報する。
- 回収・中和 : 土砂等で流出防止用の堤防を作り、空容器に回収するか又は土砂に吸収させてから容器に回収する。できるだけ除いた後、漏出した場所は、大量の水で洗い流す。必要ならば、亜硫酸ナトリウムを用いて分解してから大量の水で洗い流す。この場合、濃厚な廃液が下水溝、河川等へ流出しないよう注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 換気の良い場所で取り扱う。
容器はその都度密栓する。
皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、眼に入らぬよう保護具を着用する。
-

	<p>取り扱い後は手、顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。</p> <p>吸入したり、眼、皮膚および衣類に液が触れないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。</p> <p>貯槽への受入れ配管は、特に他の配管と区別できるよう受入れ口の見やすい場所に品名を表示する。</p> <p>ローリーホース等の接続は、フランジ結合、ねじ込み結合等とする。</p>
注意事項	: 可燃物、アセチレン、エチレン、水素、アンモニア、微細金属との接触禁止。
安全取扱い注意事項	: 作業中に温度が上昇したり、重金属類の混入があると分解し酸素ガスを発生する。 酸と接触したり、pHが低下すると塩素ガスの発生が起きるので注意が必要である。
保管	
技術的対策	: 日光の直射を避ける。 通風のよいところに保管する。
安全な容器包装材料	: 金属類、天然繊維の多くを侵す。 塩ビ、ポリエチレン、チタン、PTFE等を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 作業場所近くに、シャワー、手洗い及び洗眼の装置を取り付け、その位置を明確に表示する。 屋内作業所の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備にする。
管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	: 日本産業衛生学会(2013年度版) 記載されていない ACGIH(2011年度版) 記載されていない
保護具	
呼吸器の保護具	: ハロゲンガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器等
手の保護具	: ゴム製の保護手袋
目の保護具	: ゴーグル型保護眼鏡又は保護面(防災面)
皮膚及び身体の保護具	: 皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また、化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。 ゴム合羽、ゴム長靴。

9. 物理的及び化学的性質

形状	: 液体
色	: 淡緑黄色透明
臭い(臭いの良く閾値)	: 塩素臭
pH	: データなし
融点/凝固点	: 情報なし
沸点	: 情報なし
初留点	: 情報なし
沸騰範囲	: 情報なし
引火点	: 情報なし
自然発火温度(発火点)	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
比重(相対密度)	: 1.10~1.20(20°C)比重
溶解性	: 可溶(水)
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
その他データ	: データなし

10. 安定性・反応性

安定性	: 空気、熱、光、金属などに極めて不安定で放置すると徐々に有効塩素を失う。
反応性	: 強い酸化剤
混触危険物質	: アミン類やアンモニアと反応して有害で爆発性の三塩化窒素を発生する。 酸との接触やpHの低下により塩素ガスを発生する。
危険有害な分解生成物	: 酸との接触により塩素ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: LD ₅₀ (経口) ラット 8910mg/kg
	: LD ₅₀ (経皮) ウサギ >10000mg/kg
皮膚腐食性/刺激性	: 区分1 EU分類がR34(区分1B又は1C相当)である。 (EU-Annex1, access on 8, 2008)
目に対する重篤な損傷/刺激性	: 区分1
特定標的臓器/全身毒性-単回暴露	: 区分2 (消化器)
	: 区分3 (気道刺激性)

発がん性	: 日本産業衛生学会、ACGIH、NTP、IARCのいずれにも記載なし。
その他	: 眼に入れたときに刺激性があり、すぐ洗い流さないと角膜が侵され手当てが遅いか、処置が適当でないと視力低下や失明するおそれがある。 皮膚に触れたときに刺激性があり長期にわたると皮膚炎や湿疹を起こす。 ミストを吸入すると気道粘膜を刺激し、しわがれ声、咽頭部の灼熱感、疼痛、激しい咳、肺浮腫を生ずる。 あやまって飲み込んだ場合、口腔、食道、胃部の灼熱感、疼痛、まれに食道、胃に穿孔を生ずることがある。 腐食性があり、皮膚、眼、粘膜を激しく刺激する。 原液0.1mlを雄ウサギに点眼すると、血液様分泌物の流出、角膜の汚濁、及び結膜、瞬膜の軽度な発赤並びに腫脹などが認められる。
生殖細胞変異原性	: Ames試験 陰性、染色体異常試験 陽性、小核試験(マウス) 陰性 微生物;サルモネラ菌(-S9) 陽性 その他:ラット(7週令)に飲料水として投与した場合、2週間の投与で0.25%以上、13週間の投与では0.2%以上で著しい体重増加抑制が認められた。

12. 環境影響情報

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。特に、製品や、洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

生態毒性	: 水生生物に有毒で、LD50/96時間は、ファッドヘッドミノー(魚類)に対し5.9mg/l、グラスシュリンプ(甲殻類)に対し、小エビ52.0mg/l
水生環境有害性	: EC50(24H) 甲殻類(ネコゼミジンコ属の一種)0.005mg/L(塩素濃度EU-RAR2006)
水生環境-急性有害性	: 次亜塩素酸ナトリウム 区分1
水生環境-慢性有害性	: 次亜塩素酸ナトリウム 区分1

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま廃棄してはならない。 水で希釈し、ハイポ、亜硫酸ソーダ等で有効塩素を分解する。酸性になるので、苛性ソーダで中和する。 廃棄物処理法を遵守し都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
汚染容器・包装	: 使用済み包装容器は内容物を完全に除去した後、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国際規制

- 国連分類 : クラス8(腐食性物質)
国連番号 : 1791 次亜塩素酸塩(水溶液)
容器等級 : III
航空規制情報 : 施行規則194条危険物告示別表第1 腐食性物質

国内規制

海上規制情報

- 船舶安全法 : 危険物船舶運送及び貯蔵規則第2, 3条危険物告示第1 腐食性物質
港則法 : 施行規則第12条危険物告示 腐食性物質

輸送の特定の安全対策及び条件

- : 腐食性が強いので、運搬容器及び移液設備(配管、弁、ポンプなど)は耐食性のあるものを使用する。
分解しやすいので、輸送時間などの注意を払う。温度上昇によって分解が促進されるので注意する。
酸と接触すると分解して塩素ガスを放出するので、小型容器詰めのもものと酸類の混載は避ける。
専用容器を他の物質と共同してはならない。

- その他 : 運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 通知対象物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法 : 毒劇物に該当しない。
航空法 : 施行規則第194条告示別表第1 腐食性物質
船舶安全法 : 危険物船舶運送及び貯蔵規則第2, 3条危険物告示第1 腐食性物質
海洋汚染防止法 : 政令別表第1 有害性物質 Y類物質
港則法 : 施行規則第12条危険物告示 腐食性物質
化学物質管理促進法 : 指定化学物質に該当しない。
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
: 既存化学物質(一般化学物質)
水質汚濁防止法 : 施行令第3条 水素イオン濃度等の項目 第3条の3 指定物質
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
: 施行令第2条の4 特別管理産業廃棄物
-

16. その他情報

引用文献等 : 原体製造メーカーSDS

コメント : 記載内容は、現時点で入手できる資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の実施を前提としたもので、特別な取扱いをする場合には、更に用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。
